

例會記事

大正七年二月二十三日午後一時半より本校第一教室に於て例會を開く本日の講演次の如し。

浅草海苔 理科四年 {伊吹惠美、池田美晴、吉川 銀

珠算につきて 理科三年 {岩木トモ、井口タダ、大槻シゲ、玉木登代

下水に就きて 理科四年 {宇田いと、小林カノ、小島ミサヲ、近藤千香子、秋山のぶ、平野千代

會の始めにあたり平田先生より早稲田大學高等師範部理化學科學生松本元一氏の考案せる簡易なる瓦斯發生器につきて御紹介ありたり。

なほ本日出席せられし客員及賛助員次の如し。

岩川教授 平田教授 矢部教授

乙部教授

勝野 諒 光 雪 枝 芳 尾 里 能

安井 ト クの諸氏

講 話

浅草海苔

理科四年 {伊吹惠美、池田美晴、吉川 銀

浅草海苔といへば一體どんなことを話すだらうと色々な想像をなさることでせうが今日は浅草海苔の色素といふ方面からほんの少しばかりお話し致したいと思ひます、先づ順序として海苔を養殖することとか店に出る迄にはどんな手數を経て居るかとかいふ事をざつとお話し致します。

この海苔に關しましては、岡村博士の浅草海苔といふ書物が出て居りますので、已にお讀みになつた方も澤山ある事と思ひます私共のお話し致しますのも、この本によつて得ました知識の大體と先日砂村に出かけまして見て來ましたこととに過ぎないのでありまして、詳しく御知りになりたい方は、この書物を御覽下さればお分りになると思ひます。

海苔の養殖

海苔は海中に立てゝある筵に附着させるもので筵にする樹の種類には「カシ」「ナラ」「マテバシヒ」「タケ」等が普通であるが何でもその地方にてなるべく多くあつて安價に得らるゝものにてよろし。

筵にする粗朶は其立てる場所は深さに應じて六尺乃至一丈五、六尺位にて葉のなき枝を用ふ枝の元を紐で二尺程